2022 年度 事業報告書

1.　2022 年度活動指針

5 か年戦略(2018~2022 年)「想像以上の未来へ」を実現するため、日本人の特にジュニア世代と女性の参加者やファンの増加を図る。また、クリケットの発展を担う人材の育成を進める。

1. 2022 年度実施事業

1. 普及事業

<table>
<tr><th>事業名</th><th>事業内容</th><th>事業報告</th></tr>
<tr>
<td>「クリケットのまち」づくり</td>
<td>
<table>
<tr><th>地域 / まち</th><th>ジュニア</th><th>ソーシャル</th><th>施設</th><th>サポーター クラブ</th></tr>
<tr><td>東北 / 亘理</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>北関東 / 佐野</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>西関東 / 昭島</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>東関東</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
</table>
</td>
<td>
【亘理】
・宮城県亘理町にて新規グラウンド造成
【佐野】
・クリケットブラスト、ソーシャルリーグは別項目参照
・サポータークラブの 2022 年受領会費は、約 5,453 千円
【昭島】
・クリケットブラスト、ソーシャルリーグは別項目参照
・サポータークラブの 2022 年受領会費は、2,099 千円
【山武】
・グラウンドを年間予約
【富士】
・グラウンドを年間予約
【貝塚】
</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td>
<table>
<tr><td>/ 山武</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>東京近郊
/ 川崎</td><td>〇</td><td>〇</td><td>〇</td><td></td></tr>
<tr><td>東海
/ 富士</td><td></td><td></td><td>〇</td><td></td></tr>
<tr><td>関西
/ 貝塚</td><td>〇</td><td>〇</td><td>〇</td><td></td></tr>
<tr><td>その他</td><td></td><td></td><td>〇</td><td></td></tr>
</table>
</td>
<td>

クリケットブラストは別項目参照
グラウンドを年間予約

</td>
</tr>
<tr>
<td>CRICKET BLAST
プログラム</td>
<td>楽しいクリケットの体験、学習、習慣づける機会を「クリケットのまち」を中心に提供する。特に普及員研修、教員研修、大学やスポーツ団体などとの連携によって指導者やボランティアの育成及び教材開発を図る。

学校訪問・体験会：佐野市、昭島市、貝塚市、川崎市などの重点拠点を中心に実施する。
シリーズ：佐野市、昭島市、江戸川区、川崎市、貝塚市で実施し、三重県での再開や山武市や亘理町での新設を図る。
スクールシリーズ：佐野市、昭島市で実施する。
スクールカップ：佐野市、昭島市で市長杯を開催する。

</td>
<td>【亘理】

教員向け指導者育成講習会で、1 回実施し、20 人が参加
(柴田町）学校プログラムで 5 校、5 回で 309 人(延べ 309 人)に体験・学習提供

【佐野】

学校プログラムで、4 校、30 回で 157 人(延べ 530 人)に体験・学習提供
体験会で、1 回開催し、600 人が参加
スクールシリーズで、3 校、45 人(延べ 220 人)が参加
春季シリーズで、4 回実施し、75 人(延べ 152 人)が参加
秋季シリーズで、4 回実施し、82 人(延べ 149 人)が参加
市長杯で、6 チーム約 40 人が参加
教員向け指導者育成講習会で、1 回開催し、18 人が参加

【昭島】
</td>
</tr>
</table>

		• 学校プログラムで、8 校、39 回で 374 人(延べ 374 人)に体験・学習提供 • 部活動で、88 回実施支援し、3 名所属 • 春季シリーズ(オンライン)で、4 回実施し、71 人(延べ 128 人)が参加 • 秋季シリーズで、4 回実施し、65 人(延べ 115 人)が参加 • 市長杯で、7 チーム 40 人が参加 • 教員向け指導者育成講習会で、1 回実施し、24 人が参加 【川崎】 • 学校プログラムで 5 校、13 回で 425 人(延べ 425 人)に体験・学習提供 • 夏季シリーズで、3 回実施し、33 人(延べ 55 人)が参加 【江戸川】 • スクールカップで、1 回開催し、16 チーム 96 人が参加 【貝塚】 • 体験会で、1 回開催し、50 人が参加 【古河】 • 学校プログラムで 5 校、5 回で 241 人(延べ 241 人)に体験・学習提供
ジュニアクラブ	財政的に自立した地域のクラブを「クリケットのまち」中心に展開し、小学生から高校生までのジュニア層に日常的にクリケットをする機会を提供するとともに、生涯にわたってスポーツにかかわる習慣や情熱を育む。また、クリケットの発展を担う人材や世界で活躍できる選手の育成を図る。	【佐野ブレーブス(ハードボール)】 • 毎週、月曜日開催、24 人所属 【佐野オリオンズ(ソフトボール)】 • 毎週、木曜日(エンジョイ、スキルアップ)と金曜日(エキスパート)開催、14 人所属 【佐野ウォータークラウン】 • 毎週、水曜日(エンジョイ、スキルアップ)、5 人所属

	• 佐野市、昭島市、川崎市のクラブのメンバー拡大を図るとともに、亘理町での新設を図る。	【昭島アビエーターズ】 • 毎週、金曜日(エンジョイ、エキスパート)開催、22 人所属 【川崎】 • 新たなジュニアクラブを開設、毎週、水曜日（エンジョイ、スキルアップ）開催、11 人所属
ジュニアチーム	特に「クリケットのまち」などの周辺の中学、高校、インターナショナルスクールなどで U19 や U15 の学校チームの設立を支援し、U15 や U19 世代での競技人口増加を促進する。	• 東京のインターナショナルスクールとクリケット活動について協議
パートナーシップ	世界のクリケット関係団体との人材交流によって、スポーツの発展に必要な専門的人材を確保・育成するとともに、スポーツによる国際親善を促進する。 提携団体： • Cricket Victoria • Marylebone Cricket Club • Cricket Without Borders	• CV スタッフ招聘、MCC スタッフまたは選手招聘、Cricket Without Borders インターンシップへの選手派遣などは新型コロナウイルスの影響で中止
CRICKET FOR SMILES プログラム	復興支援事業として、仙台大学クリケット部の支援と「クリケットのまち亘理」プロジェクトを実施する。	【仙台大学】 • クリケット部へのコーチ派遣を実施 • 講座「「クリケットの発展から見える世界史とその実際」実施支援 • ニュースポーツ研修会を実施し、23 名が参加 【亘理】 • 教員向け指導者育成講習会で、1 回実施し、20 人が参加 • (柴田町）学校プログラムで 5 校、5 回で 309 人(延べ 309 人)に体験・学習提供

指導者育成	リーグやクラブにおいて、コーチ・アンパイア、スコアラーなどを育成し、競技人口増加、選手育成、大会運営を促進する。	• 関東、関西でアンパイア講習会を開催 • 愛知で予定されていた講習会は新型コロナウイルスの影響で中止
グラウンド維持管理	• 佐野市国際クリケット場 • 佐野第 1~4 クリケット場 • 富士第 1~2 クリケット場	【佐野市国際クリケット場】 • 2021 年度の業務報告 • 2022 年度の整備計画立案と受注 • 維持管理業務の実施 【佐野第 1~4 クリケット場】 • 維持管理の実施 【富士第 1~2 クリケット場】 • 維持管理の実施 • グラウンドマネージャーとの調整 【貝塚市立クリケットフィールド】 • ピッチ周辺の芝生修繕
施設整備	各地域で戦略的立地にグラウンドや練習設備の整備を進め、競技人口増加を促進させるとともに、交流人口の増加やグラウンド周辺での普及活動によって地域との共栄を促進する。 • 亘理町鳥の海公園多目的広場にハードピッチを設置 • 昭島市近辺でのグラウンド候補地の調査 • 貝塚市立クリケットフィールドに練習ネッツを設置	【仙台市周辺でのグラウンド利用交渉】 • 亘理町のグラウンドにハードピッチを造成 【昭島市近辺でのグラウンド候補地の調査・協議】 • 武蔵村山市観光まちづくり協会と協議 【貝塚市立クリケットフィールド】 • 練習ネッツを造成 【佐野市河川敷】 • 佐野第 1 グラウンドを改修し、隣接地に新たに 3 面のハードピッチを造成 【佐野市国際クリケット場】 • 第 2 グラウンドの南エリアの整備

		• ストリーミング設備の増強 【その他】 • 昭島、東関東にてマットピッチを購入 • 千葉県内での新たなグラウンド候補地について自治体や関係者と協議

2. 大会事業

事業名	事業内容	事業報告
ハードボール大会 (U15/U19/大学/女子/男子)	それぞれの年齢、性別、レベル、形式に応じた全国大会を開催する事で、地域大会の開催を支援し、プレーする場を提供するとともに、スポーツツーリズムを推進し、地域との共栄を促進する。 • 日本プレミアリーグ（JPL）・ジュニア JPL • ジャパンカップ全国決勝大会 • ジャパンカップ地域予選（東北、北関東、東関東、西関東、南関東、東海、関西） • 日本クリケットリーグ（1～3 部） • 富士 40 リーグ • 佐野 40 リーグ • Women's J-BASH（All Stars, Challenge League, Social） • 日本女子クリケットリーグ • チャンピオンズウィケット（学生） • 関東学生選手権（男女）	• 日本プレミアリーグ、関東及び関西の 5 地域代表が出場 • ジャパンカップ全国決勝大会、6 地域から 12 チームが出場 • ジャパンカップ地域予選 　○ 北関東、12 チーム出場 　○ 東関東、13 チーム出場 　○ 西関東、9 チーム出場 　○ 南関東、10 チーム出場 　○ 東海、4 チーム出場 　○ 関西、13 チーム出場 • 日本クリケットリーグ 　○ 1 部、12 チーム出場 　○ 2 部、10 チーム出場 　○ 3 部、9 チーム出場 • 佐野 40 リーグ、10 チーム出場 • Women's J-BASH オールスターズ 3 回開催

	• 関西学生選手権（男女） • 日本 U19 クリケットリーグ • 日本 U15 クリケットリーグ	• Women's J-BASH チャレンジリーグ 6 チーム出場 • 日本女子クリケットリーグ、5 チーム出場 • チャンピオンズウィケット(学生)開催 • 関東学生選手権(男女)、男子 3 チーム、女子 3 チーム出場 • 関西学生選手権(男女)、男子 4 チーム、女子 2 チーム出場 • 学生新人戦、新型コロナウイルスの影響で中止 • 日本 U19 クリケットリーグ、9 チーム出場 • 日本 U15 クリケットリーグ、11 チーム出場
ソーシャルリーグ	女性、大学生、在日外国人などを主なターゲットに都市部で、また「クリケットのまち」で、スポーツと交流が気軽に楽しめる、革新的なソーシャル(簡易版)クリケットによって競技人口増加、ダイバーシティに富むコミュニティの形成を促進する。 • チャンピオンズトロフィー • SBI Cup（後援） • 佐野クリケット祭り • 昭島クリケット祭り • Women's J-BASH ソーシャル • その他	• チャンピオンズトロフィー、新型コロナウイルスの影響で中止 • SBI カップ、30 チーム出場 • 佐野クリケット祭り：4 回開催し、21 チーム出場 • 昭島クリケット祭り：新型コロナウイルスの影響で中止 • Women's J-BASH ソーシャル：延べ 54 人が参加 • スポンサー感謝デーでソーシャルクリケットを実施
地域協会支援	• ジャパンカップ地域予選開催支援 • 設立、運営支援、その他活動支援	【地域協会支援】 • 3 月に予定されていた地域協会会議は新型コロナウイルスの影響でオンラインで個別面談を実施 • ジャパンカップ地域予選開催を支援

3. 強化事業

事業名	事業内容	事業報告
選手育成	優れたポテンシャルを持つ選手を発掘し、生涯にわたってスポーツにかかわる人材を育成する。特にクリケットの発展を担う人材や世界で活躍できる選手を育成する。 • 日本代表強化選手団（男女） • ナショナルアカデミー（U23、U19、U15） • 海外チーム招聘 • 強化試合 • 女子選手発掘プロジェクト	【強化選手団・アカデミー等強化活動】 • 男子、女子、アカデミーの各選手団の合宿を実施 • 海外在住プレイヤーとコミュニケーションを維持 • 年間で強化活動を実施 • 選手合意書及び負担金制度を改訂 • 筑波大学及び仙台大学で女子選手発掘を実施 • 東アジアカップの継続を関係協会と合意 • プロリーグに日本代表選手を推薦し、1 名がプロ契約
国際大会	世界で活躍できる日本代表を育成し、アスリートのポテンシャル実現、スポーツによる国際親善、スポーツの素晴らしさの発信、クリケットの認知向上、ファン増加などを促進し、生涯にわたってスポーツにかかわる人材を育成する。特に、日本人スター選手の育成によって発信力を強化する。 • ICC[1]男子 T20 ワールドカップ東アジア太平洋予選（開催地未定） • アジア競技大会（中国）：男子、女子の派遣未定 • 女子東アジアカップ（日本） • 男子東アジアカップ（香港）	• ICC 男子 T20 ワールドカップ東アジア予選を佐野にて開催し日本が優勝した • 女子東アジアカップを貝塚市で開催 • アジア大会は新型コロナウイルスの影響により延期 • SDG FairBreak Invitational 2022 に宮地静香選手がプロ選手として出場
PR・ファン醸成	多くの人を魅了するイベント、プログラム、選手などの実施や広報により、クリケットの価値を発信し、競技人口やファンの増加を促進する。 • ウェブサイト、SNS、ニュースレターを活用した情報発信	• ウェブサイト、SNS、試合のライブ配信、プレスリリース配信などを実施

[1] 国際クリケット評議会の略称

	• 定期的なライブ配信やビデオ配信 • 佐野市国際クリケット場における定期的な小規模イベント	

4. 組織事業

事業名	事業内容	事業報告
コミュニケーション	情報発信や連絡会議などを実施し、ベストプラクティスや成功事例などを共有し、クリケット界の発展を支えるとともに、ダイバーシティに富むコミュニティの形成を促進する。 • 総会及び地域協会会議の開催 • ニュースレターの配信 • 野市国際クリケット場において特別企画試合を開催し、コミュニティリーダーのネットワークを形成する。	• 3 月に予定されていた総会は新型コロナウイルスの影響で電子媒体で開催 • 3 月に予定されていた地域協会会議は新型コロナウイルスの影響でオンラインで個別面談を実施 • ニュースレターを四半期ごとに配信 • 各地域協会、大会運営委員会とのコミュニケーション向上に努めている
ガバナンス ＆コンプライアンス	健全で発展的な協会運営によって競技人口の増加を図るため、協会の発展に応じて、最善のガバナンスと最高のコンプライアンスを達成するために組織強化を推進する。	• 7 名の理事が再任 • ICC への 2021 年財務及び事業報告 • ICC への 2021 年統計調査 • ICC への 2022 年財務報告を四半期ごとに報告 • スポーツ庁のガバナンスコードに基づき、ガバナンス改善取り組みを継続実施 • 法務局への登記変更 • 日本オリンピック委員会への年度報告 • 日本アンチ・ドーピング機構への年度報告 • 日本レクリエーション協会への年度報告 • 国税庁へ収益事業における財務報告 • コンプライアンス委員会を設立

5. 財務事業

事業名	事業内容	事業報告
寄付金・スポンサー	事業の拡大によって競技人口の増加を図るため、寄付金やスポンサーを募集する。	• 三井農林株式会社とパートナー契約(物的支援)を更新 • MKI 社及び TechM 社に定例報告を実施 • MKI 社とパートナー契約を更新 • J-BASH オールスターにパートナーを招待し、観戦会を実施
その他の収入	事業の拡大によって競技人口の増加を図るため、受益者負担制度などにより、コスト負担の均等化を促進する。	• 佐野市国際クリケット場のティールームの営業 • ハイパフォーマンスマネージャーによる SICG アカデミーを実施し 6 名が受講 • 佐野市国際クリケット場での教室拡充を検討中